旋花

いよかづら本草綱目啓蒙按にかづらは卽葛蔓の義なれども、いよの義未だ詳ならず、からすのひるつる、同上按にひるの義いまだ詳ならず、藍漆范注方東醫寶鑑、出雲風土記、延喜式、按に藍漆は蓋しその葉青くして、光澤あるによりて、その名を得しなるべし、又唐本草に白前の一名を石藍といひしも、卽石藍漆の省呼にして、石は唐本草に、生沙磧上義なり、その磧は說文に、水階有石者とみへたるにて、その義は推はからる、藍藤本草拾遺、東醫寶鑑、名義字のごとし、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥

伊勢國五十種、○中略藍漆一斤、尾張國卌六種、○中略藍漆五斤、近江國七十三種、○中略白前一斤二兩、

〔本草和名七草〕旋花蘇敬注、音除戀反、楊玄操音辭戀反、一名菊根花、蘇敬注云、根似菊、故以名之、一名金沸、一名美草、一名山薑、出陶景注、一名菅旋、菅旋本草作蕙、出蘇敬注、一名皷子花、出拾遺、和名波也比止久佐、一名加末、

〔倭名類聚抄二十草〕旋花　本草云、旋花一名美草、旋音賤、和名波也比止久佐、

〔箋注倭名類聚抄十草〕蘇云、此卽生平澤旋菖是也、其根似筋、故一名筋根、蜀本圖經云、旋菖花根也、蔓生葉似署預而多狹長、花紅白色、根無毛節、衍義云、旋花蔓生、今田野中甚多、最難鋤艾、治之亦生、世又謂之鼓子花、言其形肖也、四五月開花、亦有多葉者、其根寸截、置土中、頻灌漑方涉旬、苗已生、○中略岡村氏曰、說文舜艸也、楚謂之菖、秦謂之蕧、蔓地連華、象形、从舛、舛亦聲、是卽本草旋花、則知本草借旋爲舜也、蘇敬謂之旋菖、蕭炳謂之菖旋、累呼二名也、又按爾雅注云、菖華有赤者爲蕧、蓋赤花爲蕧者、與赤玉爲瓊同、說文瓊下載璇字云、瓊或从旋省、蓋重文也、然則本草旋花卽蕧花、蕧瓊同音、義亦得通、故借瓊爲蕧、又用瓊或字作璇花、以字形相近譌爲旋也、是說亦通、

〔和爾雅七草木〕旋花ヒルガホ旋菖、鼓子花、美草、狒陽草、天劍草並同、

〔倭訓栞中編二十一比〕ひるがほ　鼓子花をいへり、野州越後仙臺の方言あめふり、越前にこうづる、